第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ヒガシヒダサンショウウオ

Hynobius fossigenus Okamiya, Sugawara, Nagano et Poyarkov, 2018

見澤康充（建設環境研究所）・松井正文（京都大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：見澤康充・松井正文，2026．ヒガシヒダサンショウウオ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 521-525．

Citation: Misawa, Y. and M. Matsui, 2026. *Hynobius fossigenus* Okamiya, Sugawara, Nagano et Poyarkov, 2018. *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 521-525.

有尾目 Caudata　サンショウウオ科 Hynobiidae　　日本固有

ヒガシヒダサンショウウオ

***Hynobius fossigenus* Okamiya, Sugawara, Nagano et Poyarkov, 2018**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧Ⅱ類（VU）　B1ab+2ab

基準 A:　—	基準 B:　VU	基準 C:　—	基準 D:　—	基準 E:　—

B1+2．出現範囲が 20000 km²未満かつ生息地面積が 2000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。

a) 生息地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。

【過度に分断】

生息地は分布域内でも渓流の源流部周辺の森林に局在していることに加え、ダム建設や林道建設などの環境改変、小雨による渓流の渇水、豪雨などによる斜面崩落や渓流への土砂流失による生息環境の悪化が深刻である。生息範囲は縮小傾向にあり、生息地は過度に分断され、孤立化した集団では絶滅リスクが高い状態にある。

【地点数】10 地点以下

b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。

【判断理由】

一部地域では、生息環境の悪化により個体数が減少しつつある。ダム建設や林道建設などの環境改変に加え、特に近年は小雨による渓流の渇水、台風接近に伴う豪雨などによる斜面崩落や倒木の増加、渓流への土砂流失による生息環境の悪化が深刻で、本種の生息範囲が狭まり生息地の分断や個体群の孤立化を引き起こしているおそれがある。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

本種は関東地方から中部地方にかけての山地に断続的に分布するが、一部地域で生息環境が悪化し、個体数の減少傾向が見られる。

基礎情報

【形態】

体は大型（オス頭胴長 65～98 mm）で前後肢は 2～1.5 肋鰓分離れる。尾は長い円筒形で後方で側扁する。通常 5 趾性。鋤骨歯列は深く幅広い U 字型。背面は暗い紫褐色で黄金色の斑紋があり、腹面はより淡く斑紋がほとんどない。山地渓流で繁殖し、色素が無い大きな卵を少数産む。卵嚢は強靭で外皮は厚く虹色光沢があり、遊離端は鞭状構造を持つ。静岡以東の個体群はヒダサンショウウオより大型で鋤骨歯列がより浅いが、愛知県産はより小型（オス頭胴長 66～86 mm）で鋤骨歯列もより深く V 字型が多いため、中部地方産ヒダサンショウウオと区別することが難しい。

【生活史】

成体は渓流の源流部付近の、山地森林の林床に生息する。降雪期前に移動して渓流中で越冬し、2 月から 4 月にかけて雌は渓流中の岩石の下面や伏流水の砂利の中に卵嚢対を産出する。卵嚢には虹色光沢があり、遊離端が鞭状である。1 卵嚢対中の卵数が 17～72 個。4 月から 5 月に孵化した幼生は一ヶ月ほど卵嚢中に留まり、渓流中に出た幼生は水生昆虫などを捕食する。静岡以東の幼生は越冬して翌年に変態を完了するのが普通であるが、愛知県産は年内に変態するものが多い。変態後は陸上で生活する。長骨の横断面に出現する年輪（LAGs）によれば、繁殖個体群の年齢は、東京産では雄で 5～14（平均 8.8）歳、雌で 7～12（平均 9.4）歳と推定される。

【生息環境】

成体は渓流の源流部周辺の混交林やスギ・ヒノキ植林の林床に生息する。幼生は繁殖場所である渓流の源流部付近の、流れが緩やかな溜りなどに生息する。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】森林，河川源流域，河川上流域
国土地域区分：	（1）奥山自然地域

【分布域】

関東地方から中部地方（東京、埼玉、神奈川、山梨、長野、静岡、愛知、岐阜）の山地に分布する。分布の東限は神奈川県西部で西限は愛知県北部、南限は静岡県北部で北限は群馬県南部であるが、生息地は分布域内でも渓流の源流部周辺の森林に局在する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

分布域に大きな変化はないと考えられる。

【生息地の現況】

一部地域では、生息環境の悪化により個体数が減少しつつある。ダム建設や林道建設などの環境改変に加え、特に近年は小雨による渓流の渇水、台風接近に伴う豪雨などによる斜面崩落や倒木の増加、渓流への土砂流失による生息環境の悪化が深刻で、本種の生息範囲が狭まり生息地の分断や個体群の孤立化を引き起こしているおそれがある。

【個体数の現況】

一部地域で幼生の生息個体数が減少しつつある。

存続を脅かす要因

ダム建設や林道建設などの環境改変、小雨による渓流の渇水、台風接近に伴う豪雨などによる斜面崩落や倒木の増加、渓流への土砂流失による生息環境の悪化、生息範囲の縮小による生息地の分断や個体群の孤立化。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，水質汚濁，農薬汚染/化学物質汚染，捕獲・狩猟/園芸採取，自然災害
	（現在）	森林伐採，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，水質汚濁，農薬汚染/化学物質汚染，捕獲・狩猟/園芸採取，自然災害

特記事項

比較的最近分類変更があったため、地方自治体のレッドリストや保護に係る法令指定、各種文献等では、分類変更前のタクソン（広義ヒダサンショウウオ）として扱われている場合があることに注意が必要。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	ヒガシヒダサンショウウオ	*Hynobius fossigenus*	VU
第４次 2019：	—	—	—
第４次 2018：	—	—	—
第４次 2017：	—	—	—
第４次 2015：	—	—	—
第４次：	—	—	—
第３次：	—	—	—
第２次：	—	—	—
第１次：	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【群馬県】絶滅危惧ⅠA 類(CR)，【東京都（本土部）】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【東京都（南多摩）】絶滅危惧ⅠB 類(EN)，【東京都（西多摩）】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【静岡県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【愛知県】準絶滅危惧(NT)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

特定第二種国内希少野生動植物種

参考文献

- Matsui, M., Y. Misawa, K. Nishikawa, and S. Tanabe., 2000. Allozymic variation of *Hynobius kimurae* Dunn (Amphibia, Caudata). Comp. Bioch. Physiol. B, 125(1): 115-125.
- 見澤康充，2025，東京都八王子市産ヒガシヒダサンショウウオ幼生の生息環境の変化による影響，両生類誌, 37: 43-48.
- Misawa, Y. and M. Matsui, 1997. Larval life history variation in two populations of the Japanease salamander *Hynobius kimurae* (Amphibia, Urodela). Zool. Sci., 14(2): 257-262.
- Misawa, Y. and M. Matsui, 1999. Age Determination by skeletochronology of the Japanese salamander *Hynobius kimurae* (Amphibia, Urodela). Zool. Sci., 16(5): 845-851.
- Okamiya, H., H. Sugawara, M. Nagano, and N. A. Poyarkov, 2018. An integrative taxonomic analysis reveals a new species of lotic *Hynobius* salamander from Japan. PeerJ, 6: e5084.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hynobius fossigenus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hynobius fossigenus* is listed as VU under criteria B1ab+2ab.

B1+2. Extent of occurrence estimated to be less than 20,000 km² AND area of occupancy estimated to be less than 2,000 km², and estimates indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at ten or fewer locations.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat

(iv) number of locations or subpopulations

(v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】Forest, River headwater, Upper river basin
Threat types:	Logging and wood harvesting, Transportation infrastructure construction, Dam/River structures construction, Water pollution, Pesticide/Toxic chemical pollution, Hunting and collecting animals/Gathering plants, Natural disasters
Law designation status for conservation	Specified class II nationally rare species of wild fauna and flora.





執筆者:	見澤康充（建設環境研究所）・松井正文（京都大学）
Author:	Yasuchika Misawa and Masafumi Matsui

公表年月：2026 年 3 月